

IV-78

余暇活動に対する高齢者モビリティの問題点

近畿大学理工学部 正会員 北川博巳

近畿大学理工学部 正会員 三星昭宏

1.はじめに

来世紀の我が国の人口は4人に1人が高齢者となり、他国でも類を見ない超高齢社会を迎えつつある。これまで高齢者のトリップに関する調査研究がいくつかなされている。そこでは、身体機能の低下等により移動の制限されている高齢者がおり、そのような高齢者は交通機関を使用するときに何らかの困難があり、外出に不自由を伴っていることがわかっている。今後高齢化が進行してゆく我が国では交通時に困難を持つ高齢者の問題に対処してゆく必要がある。さらに、生涯学習や積極的な余暇活動など今後の高齢者のライフスタイルも変化し、今まで以上に外出に対する要望が高まってゆくものと思われる。本研究では項目として余暇活動を取り上げたトリップ調査を用いることにより、余暇活動時における高齢者の交通実態を把握することを目的とする。ここではアンケート調査データを用いることにより、余暇活動時の高齢者の交通に関する問題点や交通困難を把握する。また、潜在的な需要を把握するために、交通機関の整備要望についても考察し、余暇活動と高齢者モビリティの関係について考察する。

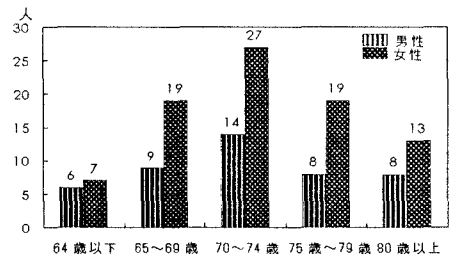


図-1 被験者の年齢・性別

2.調査の概要

高齢者の余暇活動の実態と余暇活動時の交通問題を把握するため、アンケート調査を用いる。調査被験者として、大阪府枚方市総合福祉センターの協力を得て、130名の高齢者を対象にすることができた。質問項目として、リクリエーション活動の内容、利用交通手段等の余暇活動の実態、余暇活動時の自動車利用の実態、交通機関を利用するときの困難、体力が低下したときの施設改善に関する要望を取り上げている。なお、今回実施したアンケート調査は総合福祉センター利用者送迎バスの車内で配布・回収しているため、バス利用者が多くなっている。

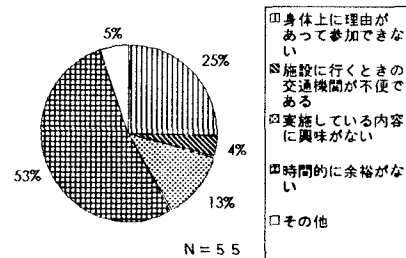


図-2 活動不参加の理由

3.高齢者のリクリエーション活動

本研究における回答者の年齢属性は図-1のように、70～74歳で女性の高齢者が中心となっている。また、学習やリクリエーション、スポーツ等の活動に参加しない被験者が55名おり、図-2のように「活動内容への興味」や「時間的余裕のなさ」が回答として多い一方で、「身体上に理由があつて参加できない」という回答者が全体の1/4いる。つぎに、リクリエーション活動の具体的内容と利用交通手段について図-3に示す。福祉センターを利用している高齢者を対象としているため、老人クラブや福祉センターでの活動がほとんどであるが、他の活動に関しては、平均して40人近くが活動している状態にある。また、図-4に見られるように、移動手段は活動ごとによって違いが見られる。町内会での活動に見られる自宅から近距離での活動は徒歩で移動しており、映画館、病院等の移動距離の長い場合では電車・バスを利用している。また、送迎用バスがあればそれを利用する傾向にある。

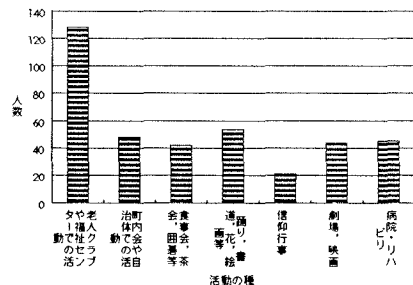


図-3 活動の種類

4.余暇活動をする高齢者のトリップの特徴

ここでは、今回の被験者が電車・バス・タクシー・自動車等の移動手段を使用する際に、身体的な理由で移動に困難を伴っているかについての項目について見ている。身体上の理由により交通機関の利用を「全くしない」「不自由を感じる」と回答した高齢者と「不自由を感じない」と回答した高齢者を年齢を軸として見たものが図-5である。他の調査では全市民の25%程度が交通困難者であると報告がされているが、全体で18%程度となっており、今回の被験者は元気な高齢者が多く、余暇活動をしているグループの特徴であると思われる。しかしながら、年齢が増加するにつれて、交通困難を感じている高齢者の割合が高くなっており、余暇活動時においても困難を伴うために、外出が減少する傾向にある可能性がある。

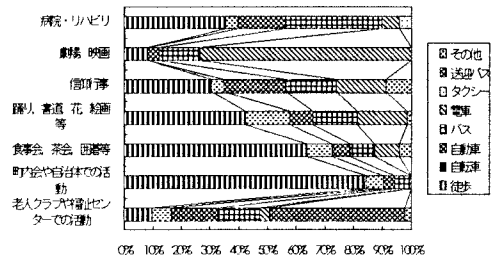


図4 利用交通手段

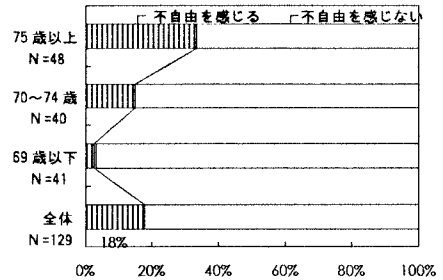


図-5 交通困難者の割合

5.交通機関の整備と外出需要の増加

ここでは、もし体力が低下し歩ける距離が少なくなったとき、どのような整備・改善が必要かについての要望を見る。図-6に示すように、ほとんどの項目で整備要望が強い。これらの改善は今後外出需要が増加する要因と考えられる。とくに、「歩道と自転車道の区別」、「下りエスカレータの設置」、「歩道の段差解消」の改善を早急に望んでいる。また、自動車の利用性との関係を見ると、図-7に見られるように、今回の被験者は比較的自由に利用できる自動車を保有しており、それに乗せてもらう傾向にある。さらに、自動車利用を頻繁にしている高齢者はさらに自由に車が利用できれば外出が増加すると答えている割合が高い。しかしながら、交通機関の整備が進み、安全で便利に移動できるようになることでさらに外出が増加する傾向は自由に使用できる自動車の保有に関係なく共通して高い。

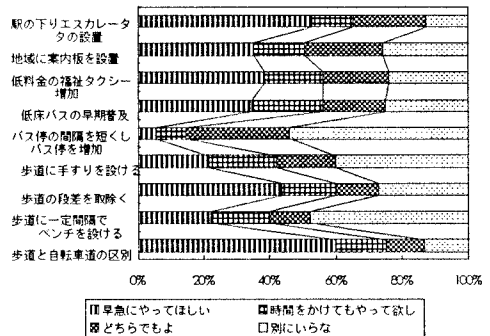


図-6 体力低下時の整備要望

6.まとめ

この研究は余暇活動を考慮したアンケート調査を用いて高齢者の交通に関するいくつかの特徴を見た。特徴として、身体的なことが理由でレクリエーション活動を断念している高齢者がいること。交通困難者は全体で18%程度存在していたこと、歩行を補助する要望として、「歩道と時点車道の区別」、「下りエスカレータの設置」、「歩道の段差解消」の改善を早急に望んでいる。また、自動車利用に関しては、交通機関の整備が進んだ方がより外出が増加する傾向にある。今後はよりライフスタイルの変化が進行した場合の高齢者の交通について考察してゆく必要がある。

<参考文献>三星, 新田: 交通困難者の概念と交通需要について, 土木学会論文集 No.518,1995.

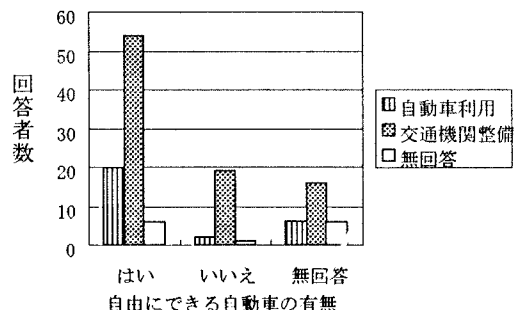


図-7 自由車の有無と外出増加